はじめての

万葉集

【vol.53】

日本に現存する最古の和歌集「万葉集」をわかりやすくご紹介します

蒲生野の遊猟

紫草の　にほへる妹を　憎くあらば
人妻ゆゑに　われ恋ひめやも

大海人皇子　巻一　二一番歌

訳　紫草のように美しいあなたが憎かったら、あなたは人妻だのに、どうして恋いしたうことがあろう。

今回の歌は、大海人皇子（後の天武天皇）が額田王に贈った一首です。この歌の前に、額田王は「あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る」（あかね色をおびる、あの紫の草の野を行き、その御料地の野を行きながら、――野の番人は見ていないでしょうか。あなたは袖をお振りになることよ。）と詠んでいます。袖を振ることは、古代では相手の魂を呼びよせる呪術的な行為とされ、相手の心をひきつけようとする、求愛の行為とみなされました。その大胆な行動に驚く額田王に対して、大海人皇子は、たとえあなたが「人妻」であっても恋しく思うのだという、熱烈な愛の歌を返します。

この歌が詠まれたのは、天智天皇の蒲生野（現在の滋賀県、琵琶湖の東南部）での遊猟の時です。今回の歌の左注には、『日本書紀』の天智天皇七（六六八）年五月五日の蒲生野での遊猟の記事が引用されています。五月五日に野に出て鹿を狩る。この行事は「薬猟」とも呼ばれ、早くは推古天皇の時代に記録がみえます。猟は、王と臣下との主従関係を確認する、儀礼的な行事でもありました。

また、「薬猟」では狩猟だけでなく薬草などを採ることもあったようです。今回の歌で詠まれている「紫草」は、当時貴重な植物とされ、額田王の歌に「標野」（他人が入ることを禁じた野。ここでは天皇の御料地）とあることから、「標野」における「紫草」の採集も行われたのでしょう。

この歌の「人妻」という言葉から、額田王を天智天皇の妻とする見方もありますが、額田王が天智天皇の妻であったという歴史的な記録はありません。そもそも、この歌は相聞歌ではなく雑歌（儀礼の時の歌）に分類されています。額田王をめぐる三角関係を想起させる歌ですが、現在では、遊猟の後の宴席における戯れの歌であるという理解が支持されています。

（本文　万葉文化館　大谷 歩）

万葉ちゃんの

つぶやき

和歌に関連するものを紹介するよ！

万葉ちゃん

国特別史跡 本薬師寺跡

現在奈良市にある薬師寺の前身にあたる寺で、天武天皇が皇后（後の持統天皇）の病気平癒を祈願して、建立に着手しました。しかし完成を待たずして天武天皇が崩御し、持統天皇がその遺志を継いで完成させました。

現在、本薬師寺跡周辺の水田にはホテイアオイが植えられ、最盛期には40万株を超える淡く美しい紫色の花が一面に広がります。

問 橿原市産業振興課
☎0744-22-4001（代）

問 県広報広聴課　☎0742-27-8326　FAX 0742-22-6904